

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

図書館・情報学専攻 図書館・情報学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

図書館・情報学専攻図書館・情報学分野修士課程では、課程修了時に学生が修得すべき能力として以下のものを定め、学則に定める修了要件を満たした場合に修士（図書館・情報学）の学位を与える。

1. 情報学、情報メディア、情報システム、情報検索研究において、研究領域全般に関する基礎的な専門知識を身につけ、英語の文献を理解し、適切な研究方法を使用して専門的な研究を展開できる。
2. 図書館・情報学分野における特定テーマに関して、修士論文を執筆し、関連領域で専門的な成果を発表できる。
3. 情報や知識の視点から人間、文化、社会を考える力を持ち、重要な問題や課題を認識し、それを解決していくための実践的な研究能力を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

図書館・情報学専攻図書館・情報学分野修士課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、少人数の発表と討議を主体とする科目を設置し、32単位以上の科目の修得と修士学位請求論文審査に合格することを修了要件とする。
2. 図書館・情報学分野のカリキュラムは、情報学、情報メディア、情報システム、情報検索に関する科目群を主体とし、同時にアカデミックスキル修得のための科目を設置し、学生の自由な選択を可能とする。特に、図書館・情報学分野の最新の論文の講読と批判的議論を行う科目は必修科目として設置する。
3. 修士論文の執筆を可能とするため、修士論文指導のための科目を設置し、指導教員の個別論文指導と研究会での討論を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、研究能力および論述力を養う。また、専攻全体での修士論文中間報告会等の開催を通じて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
4. 修士論文審査については、論文題目および主査（原則として指導教員）および2名の副査（専任教員）で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団に

よる論文審査、審査団および関連研究領域の教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。

5. 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
6. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
7. 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

【アドミッション・ポリシー】

図書館・情報学専攻図書館・情報学分野修士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、図書館・情報学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、まとめることができる。
3. 英語の専門文献を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
4. 修士課程修了後の実務家あるいは研究者としてのキャリアについて、積極的に考えている。